

# 5年ぶりに帰ってきた！テーブル小説

## 第1話・運命のメルカトル

時は令和。祖父や父の生きた時代と比べて、何もかもが変わった現代。物を買うにも、就活するにも、実際に顔を合わせることもなく済ませられる時代だ。『血の通わない時代』だと嘆く人もいるけれど、この時代に生を受けて大人になりつつある僕にとっては、これが当たり前だし、気楽だし、疑問なんて抱いていなくてもいい。お腹が減ったらアプリで注文して、運んできてくれた誰かに会うこともなく支払いと受け取りを済ませて、こうして夜を過ごすことは、今の日本では『普通』なのだ。何だってそうだ。VRで異世界へ旅行気分、飲み会や会議はリモート。対面しなくて済むことだらけ。スマホがあれば事足りるんだ……そう、『恋』でさえも「君がいてくれて、毎日楽しいよ」

『ありがとう。私も』  
大切な相手と言葉を交わす。どんな表情で聞いているかわかるのかはわからない。彼女は紛れもなく、何にも代えがたい僕の大切な存在だが、まだ会ったことはなかった。僕が知る彼女の容姿は、SNSの画像欄に表示されている最適化された姿だけ。『パートナーとしてそばにいてほしい』——その言葉は、今すぐになんて言えるはずなのに、なぜか遠く感じていた。  
「SNS、見たよ。この間は広島に行ってたんだって？」  
「うん。いいところだったよ。みんな親切でさ。あんなに」

「ちやほやされるの、初めてかも」

「そ、そっか。そうなんだ……」

夜中に物を注文すれば、翌々日の昼には手元に届く。リモート授業で学んだ成果は、テストでしっかり点数に反映される。この想いは少し違う。彼女との物理的な距離は、僕の決意を濁らせる要素となるには十分らしい。彼女に焦られる僕の心は、真実だったが、その真実を解き放つ勇気を、他でもない『目の前』に存在する彼女から与えてほしいと願ってしまうのだ。  
「実は、会えるんだよ」  
「え？」

「三月十一日・十二日の二日間、アリオ札幌の『PHEV FUTURE PARK』で！そのあと二十五日・二十六日は北海道三菱南店のショールームで会えるよ、私たち！」

世界中に聞こえるんじゃないかって勢いで、僕の心臓がドクン、と跳ねた。会える、会えるんだ！彼女——僕がこの初夏購入を検討している軽自動車・デリカミニと、先行展示会で会えるんだ！世の中がどれほど便利になっても、やはり車は実物を見ないことには購入の決断がしにくいもの。僕のような迷える検討者の背中を押すイベントが、この北海道でも開催されるなんて、朗報と言うしかない！

「先行展示会の帰りには、小樽店へ立ち寄ってくれよな！小樽店、お兄さんとキミとの約束だ！」

「誰！？」  
「小樽店でキミを待っているよ！」

「誰なの！？」

謎の男・小樽店お兄さんが登場！主人公の決断の行方はいかに！？これからの小樽店からも目が離せないゾ！ ※続く

アンケート  
回答でミニカー  
プレゼント！

さらに、SNS投稿で/  
コットンバックもしくは  
ミニカーがもらえる！



三菱の電動車がつくる、  
ちょっといい未来をのぞいてみよう。

デリカミニ・先行展示のお知らせ

★見たらきっと好きになる。購入の相談はぜひ小樽店へ！